

堺市中区地域計画の振り返りと改定の方角性について

Q1 現在の計画における各分野別要素のKPI（重要業績指標）の達成状況や、日々の暮らしの中で感じる現在の区民ニーズなどを踏まえ、残りの計画期間で重点的に取り組むべき点等について幅広くご意見ください。

伊藤 久美子	● 福祉を除く、すべての分野について、前々年度（R1年度）よりKPIが現在まで全体的にUPLしてきていていい傾向だと思います。 ● 上記のとおり、福祉のみKPIが減少しているため、これまで以上に高齢者並びに障がい者福祉の充実に着目してほしいです。 ● 特にアクティブシニア層向けの居場所づくりについて、重点的に参加できるイベントや場所づくりに取り組むべきではないでしょうか？ 健康面に注目して、例えば、朝一体操や簡単なヨガなど、自治会単位で体操するようなイベントなどを各地で広めてほしいです。
今西 千晶	● 安全の分野の特殊詐欺対策での高齢者への自動通話録音機の貸し出しがあると聞きましたが、高齢者に関わるケアマネジャーさんは知らない方が多かったです。ケアマネジャーさんや介護保険事業の事業所に情報が共有できるよう周知が必要だと感じました（各部会などで情報共有を行うなど）。数がなかったのであまり周知していなかったという情報もありました。 ● 交流分野のKPIがH22年度の数値より倍近く向上しています。数値の高さからニーズの高いものだと思うので、今後も重点的に進めてほしいです。 ● 健康分野のKPI①ですが上昇しておりニーズの高さからもっと上げることは可能だと思います。前期高齢者になるまえの方や若い方のセルフチェックやがん検診などの必要性をもっと周知できればよいと思います。 ● R1と比較して、健康分野のKPI②については上昇、福祉分野のKPIについては下降していますが、数値の上下動にかかわらず、高齢者だけでなく支援が必要な方たちに今後も相談する先がどこなのか、またもっと気軽に相談しても良いという周知活動を強化していきたいです。
太田 佳世	先日、校区内で登校時にこどもの連れ去り未遂事件が発生したことを受け、地域住民の中で、こどもの見守りを求める声が多くあるので、安全の分野について優先的に考えていただきたいです。
金澤 正巳	● 市民意識調査だけに限らず、育児や福祉の直接の当事者になっている区民にも意見を聞き、重点事項を検討することも大事だと思う。 ● 昨年末、小学生の連れ去り未遂事件が中区内で発生した。身近なところで、いつ犯罪が起きてもおかしくない現在の状況をふまえ、防犯意識を高める取り組みが必要だと思う。 ● また、わんわんパトロールの登録件数はそれなりにあるのかもしれないが、地域で見かけることがほとんど無いように感じる。もう少し、活動してもらえよう取り組みが必要ではないか。

澤本 美奈子	● 計画の各分野での取組が進められていると感じた。 ● 地域では、どこも防災の取組が活発に行われており、日常会話の中でも地震の話や避難についての話などが出てくるようになって、防災意識が高まっていると感じる。 しかし、現在自治会加入率が減少していることから、防災の取組に参加する機会の少ない自治会未加入の方にも地震時の避難行動などについて理解しておいてもらわなければ実際に大きな災害が起こったときに、役所の機能がパンクすることが想定されるため、自治会未加入の方に対する平時からの周知についても力を入れるべきである。
静 又三	● 特殊詐欺被害が増えている。振り込み詐欺や買い取りといったうまい話に騙される人が多いので、詐欺対策や防犯対策に取り組んでほしい。 ● 若い世代の地域行事への参加が少なく、コロナ禍以降はふれあい喫茶の参加者も減っている。参加しない人の中には、単にふれあい喫茶へ来ないだけでなく、どこへも出かけることができない引きこもりの人も含まれていると思う。人が生活していくうえで、何より交流が大事だと思うので、引きこもりの人も集える居場所づくりに取り組んでほしい。 ● 健康の分野では、歩くことが大事なので、基本的な運動が取り入れられるような事業を継続してほしい。
竹井 進	福祉分野のKPIについて、唯一の減少となっていますが、保健師、社会福祉士、ケアマネジャーなど専門的スタッフが配置されている地域包括支援センター（高齢者総合相談窓口）との連携を図り、医療機関、福祉関係者、民生委員などのネットワークを構築し、高齢者やその家族の在宅生活、病院からの退院時における相談等を受けられる環境が整った暮らしやすい地域社会をめざす取組を進めるのが良いと思います。
田重田 勝一郎	● 水質池公園整備事業による商業施設のオープンで治安の悪化も懸念されることから、安全分野は優先度高めかと思います。 ● 子育ての分野について、中区は虐待の通報件数も他の区と比べて多いと伺いました。その背景を探り、根本的な手立てを打っていく必要があると思います。 これからますます人口減少していくことを考えると、中区に住み続けたいと住民が思えるためにも、安全面と子育ての分野の優先度は高いと考えます。
巽 真理子	子育て分野のKPIが、他の分野と比較して低いため、次世代を育てることを優先すべきだと思います。 少子化がものすごい勢いで進んでいる中、これからは子育て世代が、住む場所（市区町村）を選ぶ時代になっています。
谷村 修	単身高齢者世帯が増加していることや、障害のある方が暮らしやすい地域をつくっていくという点で、福祉の分野は、より重点的に推進していくべきだと思います。

仲氏 昌平	● 交流については、区民フェスタなど他のイベント等により以前よりも活発な区民の交流やまちづくりにつながる取り組みができているが、引き続き、交流の仕掛けづくりを続けていくことで、持続可能性のあるまちづくりができる。 ● また、水賀池公園が整備されることもあり、より一層魅力のある中区を作り上げるために、同公園施設での定期的なイベント開催や区民フェスタや大阪公立大学とのコラボイベント開催などが不可欠。
中辻 さつ子	地域の子育てサークルは、月齢の早いうちに保育園へ入園することも増えたため、全体的に参加者は減っている状況である。今後は、子育てサークルとは違った形で子育て支援を検討する必要があるのではないかと思います。 また、不登校のことも増えているので、全体的な子育てへの支援が大切だと思う。
松居 勇	● 「安全」の「犯罪や事故のない暮らしの実現」について、総合評価の低い事業が多い。区政策会議で採り上げたことがある項目でもあるので、改善につなげたい。 ● 「環境」のKPI①「堺市はまちなみの美しさに満足できるまちだと思いますか。」について、大きく上昇しているが当初値がかなり低かったので、現状に甘んじずさらに伸ばせるよう積極的に取り組んではどうだろうか。 ● 「交流」の「地域課題解決力の強化」の「SHSなか学コミュニティ事業」について、内容の見直しを図り取り組み方を変えてもいいのではないだろうか。高校生のみならず、区政策会議・学生部会（大学生）との連携を図るなど。 ● 先行的取組（水賀池公園整備事業）について、整備後の施設活用方法を検討するような場を、住民や地域団体が参加できるようにしながら早い段階から設けられたら望ましいと思う。具体的な事業に落とし込んでいいのではないだろうか。
森田 裕之	● 個別の事業について、評価が良くないものについて、こういった理由で評価が低かったかの理由を分析して改善を考える、また改善ができないということであれば指標の見直しが必要ではないか。 ● 水賀池公園施設のアクセスについて十分な配慮と説明が必要だと考える。
梶原 愛未	● 安全の分野における治安のKPIに関しては、上昇幅が低いいため、重点的に推進する必要があると考えます。 ● 子育ての分野に関しては、KPIやこれまでの政策会議の内容も踏まえて、今後もさらなるKPIの上昇が必要な分野だと考えられるため、重点的に推進すべき点だと考えます。

小西 響	● 私の感覚的に堺市に来て水を近くに感じることは、少ないが池が比較的多いように感じるので地域防災の観点から、ため池等の防災対策、避難経路確認が大事だと思う。 ● また、地震が来た際に近所に誰が住んでいるかなど知らないと救える命も救えないのでそういった横の繋がりが、より強くなるといいと思う。 ● わんわんパトロールなど“ながら”で地域に貢献できるのは行動を起こすハードルが低くなり、ついでにできるので今後も続けるべきだと思う。
堤 朋子	● 子育て支援の取り組みの満足度や利用できる制度の内容が非常に充実していると感じるので、その制度があることやイベントがあることを、支援を必要としている人に届けるというところに力を入れていくことが必要だと感じました。 ● 近年災害に関する市民の意識が高まってきているように感じるので、防災訓練などへの参加者の増加や訓練の内容をより本番に活きるものにするなどの工夫を行い力を入れていくことが大事だと思いました。 ● わんわんパトロールの取り組みは見守りの目が増えるということで非常にいいと感じたのですが、その取り組みに参加している人の人数があまり増加していなかったため、その要素を指標の一つとすることもあり得るのではないかと思います。 ● がん検診の受診率の向上のための取り組みとしてあった日曜乳がん検診は定員に対して多くの参加があったとのことで、それだけ需要があるのではないかと感じたので今後もこのような取り組みの継続や、回数を増やしていてもいいのではないかと思います。 ● 中区民フェスタの満足度に関するアンケートの回答者数が、来場者が多いのに対して少なく感じたので、もっと多くの人からのフィードバックがあれば、より魅力的なイベントになるのではないかと考えました。 ● 堺市はまちなみの美しさに満足できるまちだとおもいますか。という問いに対しての達成率が43.3%と低く、それに対しての取り組みが少ないように感じたので、より力を入れていくことが必要なのではないかと思います。まちなみというのは、一見大事な要素には思われにくいですが、まちなみが悪いと犯罪率が上がったり、観光客や中区を訪れる人の印象が悪くなったり、生態系の問題ともかわりが深かったりと、他の要素とも関連するので、大切にしてもらえるとありがたいなと思います。

山口 睦季	「健康」分野について、KPI①②共に目標値を達成したことは非常に喜ばしい。令和3年度から令和5年度にかけての、アクションプランリストにおける総合評価の変移をみても、Aが増えている。だからこそ、引き続き「健康」分野に力を入れて活動を行い、中区の芯のある強みとして「健康」を確立できればいいのではないかと考える。 「健康」分野は、年齢や性別、障害の有無など様々な個人因子に関係なく、区民全員にとって等しく重要な要素である。そのため、社会的に平均寿命ではなく「健康寿命」が意識されるようになってきたことをふまえても、健康獲得のための適切なサポートが施される区に魅力を感じる人は、一定数いると考える。 また、「健康」分野の資料を拝見した中で、特に、「中区は虫歯を持つ乳幼児が堺市で一番多い区である」ということが気がかりだ。「8020運動」というものがあるように、老齢期に自分の歯を多く残しておくことは健康寿命の伸長に効果的である。 また、健康な歯による適切なかみ合わせが日常生活動作の質の向上に関わっていることも、広く知られている。以上のように重要な存在であるにもかかわらず、永久歯は1度しか生えてこない。永久歯を守るためには、幼いうちから虫歯菌を増やさないことが重要であり、そのための工夫や意識に幼少期から慣れ親しんでおくことが重要である。 また、大人になっても、歯の健康の重要性を改めて認識できる機会を時々設けることが必要だと思う。KPI①で「血圧や体重」といった言葉が例に挙げられていたように、「健康」というどうしても数値的に確認できる身体状況や、感染症予防といったコンテンツに目が向きがちだ。しかし、QOL向上の基盤を担う存在だともいえる口腔衛生に着目した取り組みは、非常に重要であり、見逃してはならないと感じている。
桂 恵輔	● 現在の中区地域計画でも述べられているように区内で高齢化が進んでおり、福祉に関するニーズは高まり続けていると考えられる。 一方で、現在の分野別要素“福祉”のKPIは減少しており、目標達成から遠のいている状況である。 令和3年度から令和5年度にかけての“福祉”に関する取組の総合評価はほとんどが最高のA評価であり、現在の取組は十分な成果を出している。そのため、“福祉”に関する新たな取組を増やすべきであると考えられる。 ● 近年、強盗などの凶悪犯罪がたびたび発生している状況である。ニュースで見かける機会が増加しており、区民の不安感情も高まっているのではないかと。それらの犯罪を抑止し、区民の方に安全を感じていただける取組へのニーズが高いと考えられる。そのため、分野別要素“安全”に関する取組を推進すべきであると提案する。

真栄田 愛花	「防災」は、最近起きた日向灘を震源とした地震による、南海トラフ地震への注意喚起から注目が集まっていると思う。 KPIを参照しても、堺市では、令和7年時点で、「堺市は災害に強く、安全・安心に暮らせるまちだと思いますか。」について66.7%、「堺市は治安に関する不安が少ないまちだと思いますか。」について58.7%と、安全・防災の観点において重点的に取り組むべき意義があるのではないかと考える。 特に、堺市中区は大学があることもあり、一人暮らしの大学生が多く住んでいることから、堺市に関する地理的知識がなかったり、災害が起きたときにどうなるか、といったイメージを持っていなかったりする住民は多い可能性がある。 そのため、防災に関する正しい知識や行動についての周辺啓発とともに、「災害」を身近に感じることができる広報を行うと良いのではないか。例えば、堺市中区に起こる可能性がある災害について、地域に看板などを設置することにより、防災に関心を持ち、防災意識が高まったり、地域活動に参加したりするきっかけになるのではないか。
---------------	---

Q2 計画改定に関し、区を取り巻く環境の変化などを踏まえ、見直しを検討すべき点について、ご意見ください。
 （骨子案作成において重要なファクターである将来像、将来像実現をけん引する先行的取組、基本要素、分野別要素、取組の方向性などについて特にご意見をお願いします）

伊藤 久美子	■ 現在の中区を取り巻く環境を踏まえて、下記の点を今後もさらに追加検討するべきではないかと思います。 ① 人口や暮らしの変化への対応について 中区の人口構成や暮らしの変化を丁寧に見つめ、高齢の方が安心して暮らせるサービスや、子育て世代がより住みやすい環境づくりを進めることが大切だと思います。また増えつつある空き家を、新しい形で地域に活かすアイデアを検討するのもいいかもしれません。 ② 地域の魅力を活かした経済の活性化 中区ならではの特産品や歴史的な魅力を活かし、地域ブランドを作っていくことは、地域全体を元気にする大きな力になります。 また、地域の商店や企業がデジタルを上手に活用できるよう、サポート体制を考えることも未来に向けた一歩です。地域で使えるポイント活用も検討してみてもどうでしょうか。 ③ 快適で便利な移動環境の整備 高齢の方やこどもにも優しい公共交通サービスや、自転車や徒歩での移動が楽しくなる道路づくりを進めると、暮らしがもっと豊かになると思います。 主要道路の混雑を減らし、快適に車を使える環境づくりも再度検討してみる価値があると考えます。 ④ 環境と防災に優しい地域づくり 今回の植栽でかなり公園や緑地が増えると思います。さらに継続しハーブなどを植えていくことで、ハーブのある町「中区」をアピールでき、自然と触れ合える場所を整えることで、区民のみなさんの心にゆとりをもたらします。 また、地震や洪水などの備えをより強化し、避難所の設備や情報共有の体制を充実させることも大事です。 ⑤ 地域のつながりを深める 住民の方々が参加しやすい仕組みを取り入れて、地域全体で未来の中区を考えるプロセスづくりが必要だと思います。また、防犯意識を高めたり、地域で見守りの仕組みを整えたりすることで、より安全な町になると思います。
今西 千晶	● 安全分野です。中区に警察署ができて安心していましたが、ニュースやまわりで特殊詐欺や強盗や殺人など事件が増えているように感じています。今後水が池公園の改革でも増えてくると思います。防犯について強化してほしいと思います。 ● 福祉分野の「誰一人取り残さない」社会の実現のために、弱者である障がい者や高齢者への支援について強化してほしいです。 ● 安全分野の防災の強化についてももっと話をする必要があると思います。南海トラフや異常気象を考えると公助だけではむずかしく自助強化のために一人一人の意識が変われるような対策をもっと考えてほしいです。

太田 佳世	● 水賀池公園が新しくなるので、そこにこどもから大人まで交流できるような居場所づくりを考えていただきたい。 ● 年々、学校に行かない、行けないこども達が増えてきているので、公園内にそういった若者が安心して過ごせる場所を作ること子育ての分野の中にいれていただきたい。
金澤 正巳	水賀池の開発にあたって、新しいものを作れば人は集まるが、それだけでは無く、どの世代も集まれるようなさまざまな催しがたくさん開催されることが必要である。そうすることで、水賀池に行けば何かやっているという知名度が上がり、他にはない中区の魅力になると思う。
澤本 美奈子	● 安全の分野について・・・埼玉で道路の陥没があり、とても怖いと感じている。市民の命に関するような安全に関することについては、そういった他県や他市の事例も参考に、堺市でも起こらないかのチェックなどを十分に行ってほしい。 ● 健康の分野について・・・今年はインフルエンザが流行しており、また新型コロナウイルス感染症についても通常の医療提供体制に移行したものの、いまだ周囲でかかる人がいるので、感染症への対策は引き続き行ってほしい。 ● 歴史文化の分野について・・・中区には注染など素晴らしいものはあるのに、区内で買えるところが少ないなど、地域の人の手に渡りにくい状態になっている。いくら注染はいいものです！と市が言っても、地域の人が実際に使っていないのにその魅力を広げるのは難しい。魅力を伝えていくには、まずは地域の人が実際に使ってみて（場所の場合は訪れて）、その良さを実感し、広がっていくという流れが必要だと思うので、地域の人にその魅力が伝わる、また感じた魅力を広めやすくなるような取組を進めてほしい。
静 又三	● 水賀池の開発で新しい施設ができることによって、交通状況がどうなるのかが気になっている。美原区のららぽーとのように、生活道路の円滑な交通が妨げられ、近隣に暮らす人たちが不便になってしまうのは、区のランドマークとなる施設として良いことではない。出来上がってからでないとわからないところはあるものの、十分な対策をとってもらいたいと思っている。 ● 過去からの署名運動等の結果、中区域を管轄とする中堺警察署ができたので、より一層地域や区役所と連携し、区民の安全を守る取り組みを行ってほしい。
竹井 進	路上喫煙は健康に悪影響を及ぼす恐れがあるほか、それに伴うポイ捨てはまちの景観を損ねるため、それらを防ぐために路上喫煙等禁止区域の指定、駅周辺のタバコ禁止条例、路上喫煙や受動喫煙の防止を目的とした条例の制定を行うなど、地域住民が安心快適に過ごせる地域となるようにしてほしい。

田重田 勝一郎	歴史文化の分野について、区民の読書に関する興味・関心の向上が掲げられていますが、中区にはソフィア堺と東百舌鳥分館があるだけでアクセスもそんなに良くないと思います。（昔は移動図書館があったような気がしますが今もやっていますでしょうか？） 水賀池公園整備事業で、寝屋川市中立央図書館のようなスタイリッシュな図書館が整備されれば図書館に人が集まり、区民の読書に関する興味関心の向上にも寄与すると思います。   寝屋川市立中央図書館
巽 真理子	今の計画案では、子育て支援の必要性が伝わりにくい。高齢者率だけでなく、こどもの数のデータも「見える化」して、次世代育成のための課題をきちんと打ち出した方がよい。
谷村 修	安全の分野別要素において、昨今、地震など自然災害が多く、防災意識も高まっているかと思いますが。住んでいる地域が災害に対してどんな備えをしているのか、どんな対策をしているのかということをやより周知することも加えることで、中区で生活することに安心感を持ってもらえるかと思いますが。
仲氏 昌平	● 10年先(2030年)を見据えた中区の将来像 水賀池や宮園団地跡地の有効活用によって人口が増加することを踏まえて、より一層の魅力発信が必要となってくる。 単に住居地域ではなく、他の区や他市からも来ていただけるような、例えば花火大会などの取り組みが必要。 ● 2025年までの区政運営の基本的な方向性 みんなが安心を感じ、魅力をつなぎ、活力を生む、成長の歩みをとめない中区を継続するのが良いと考える。
中辻 さつ子	高齢になり複合的に色々な問題を抱えるようになって、地域包括支援センターの存在を知らない人が多く、個々に直接連絡する人はほとんどいない。役所とは別に気軽に集えて、人や地域、相談員と繋がることができる場所があったら良いと思う。そういった気軽にお茶でも飲みながら相談できる施設がこれから開発する水賀池公園にできたらいいのではないかな。
松居 勇	具体的な事業の総合評価は高いもののKPIの上昇がさほど見られない分野別要素について、もしかすると実施事業が効果的ではない可能性があるため、抜本的に見直しを図るのはどうか（「歴史文化」の「文化・芸術活動の振興」など）。
森田 裕之	個別の事業の評価の仕組みで、アウトプット指標とアウトカム指標の設定などにつき、整理できていない部分があると考え、計画改定を行っていく中で、きちんと整理しなおすべきだと考える。

梶原 愛未	子育て支援については、以前の政策会議でも挙げた内容ですが、「子育て支援にアクセスできていない人をどう支援につなぐか」という視点が重要であると考えます。 そのため、取組の方向性や取組方針においても、「子育て支援に対する潜在的なニーズのキャッチ」といったような観点も加えた方が良いのではないかと考えます。
小西 響	● 文化事業は効果などがわかりにくいところがあるが地域のアイデンティティを育むことに重要な要素なので今後も継続して行っていくべきであり、プラスでこども向けの教育などからも事業拡大を行ってもいいと思う。 ● 年代が上の方向けのクラブ活動はあるので、その世代のよこのつながりはある程度存在すると思うが若者向けのクラブが少ないので活動が拡充され、横の繋がりが豊かになると良いなと思う。 ● 区民の健康を良くすることは医療費の削減にもつながると思うので、水質池公園などどこでもいいが散歩したくなるような仕組みがあるといいなと思う。 ● 地域のつながりを作るために自治会の加入率を上昇させる施策が必要だと思う。
堤 朋子	● 将来像を構成する要素である、「安心、魅力、活力」の部分は非常にわかりやすいと感じました。タイトルの「成長の歩みを止めない中区」というキャッチコピーもわかりやすいのですが、このキャッチコピーがゼロなものをプラスに感じるように感じて、人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化によりマイナスになってしまった環境を、ゼロにするということにも取り組んでいくことを示すことができればいいのではないかと感じました。 ● 「将来像実現をけん引する先行的取り組み」について、その取り組みが中区の将来像のどの部分に合致しているのかや、このプロジェクトが行われたときにどのようなことが実現されるから、この取り組みがせん先行的なのかがわかるような記載があるとよいと感じました。 ● 分野別要素の環境の部分で、行政の管理している街路樹や公園、公共施設の敷地内の緑地などの管理を十分に行うことが、街並みの維持や生態系の保全につながると思いました。 ● 分野別要素の歴史の部分で、文化芸術に触れる機会と、それを通じた交流と並んで、気軽に始められる環境を整えたり、自分の成果品などを発表する機会を整備したりすることができればより文化の振興につながるのではないかと思います。

山口 睦季	● 資料5「堺市中区地域計画」における「子育て」分野に関して、「母子」だけではなく「父子」を意識した言葉・イラストの選択をするよう工夫する。片親というカテゴリーにおいて父子家庭は現状としてマイノリティであり、だからこそ「そこに手を差し伸べる区である」ということを、計画でも意識できれば良いのではないかと感じる。 ● 資料5「堺市中区地域計画」における「交流」分野に関して、「日本以外にルーツがある中区在住の人」という視点で拝見したとき、当事者性があまり感じられないかもしれないと思った。世代間交流という言葉があったが、交流が必要なのは世代間だけではないように感じられた。
桂 恵輔	現在、堺市内で外国人の住民の方が増加している（計画の策定された令和3年3月末の時点で15,563人から令和6年11月末の時点で19,538人に増加；住民基本台帳より）。外国人住民の方の増加を踏まえて窓口業務や日常生活といった点で問題は生じていないかを考慮し、問題の生じている場合にはその解決に向けた目標を策定すべきではないか。
真栄田 愛花	● 「セーフティネットの保証と自立支援」について、支援に関する情報の告知を広げた方がよいのではないかと考える。現状では、「自立」を重点とした取組を目指しているが、その自立のために必要な情報が、住民に届いていないのではないかと考えている。例えば、生活困窮者向けに、受けることが可能なサービスを広報したり、相談窓口の紹介を行ったりすることが重要ではないか。 ● 「地域課題解決力の強化」について、「お祭り」をキーワードに、住民同士のつながりを作りたい。私は、若者の多くは「自治会」という存在は何のために、そしてどのようなことをしているのか、といったことがよく分からないために、自治会に入らないといった問題が生じているのではないかと考える。特に若者は、地域の行事には参加しにくいイメージがある。しかし、その中でも、比較的参加しやすい・自治会の方の負担が増大していると思われる「お祭り」をきっかけに、自治会の存在や活動内容を伝えることができると、若者の自治会加入率は高くなるのではないかと考える。例えば、自治会の現状を伝えるポスターをお祭りの際に掲示したり、説明の場を設けたりすることが、若者への理解度を上げるために有効ではないかと考える。